

平成29年11月30日

八代市議会自由民主党 和
代表 橋本 幸一 様

八代市議会自由民主党 和
管外行政視察復命書

視察期日：平成29年11月7日（火） ～ 11月9日（木）3日間

視 察 先：会派要望 (東京都)
東京臨海広域防災公園 (東京都)
川越市 (埼玉県)

参 加 者： 議員 橋本 幸一



議員 谷川 登



議員 中村 和美



議員 前川 祥子



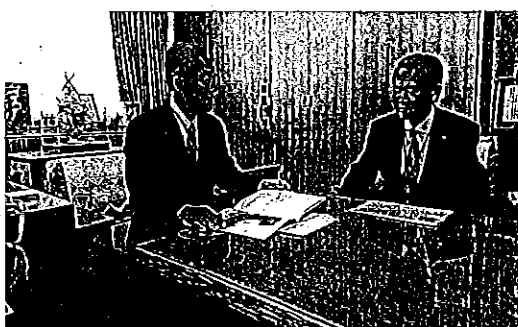
議員 高山 正夫



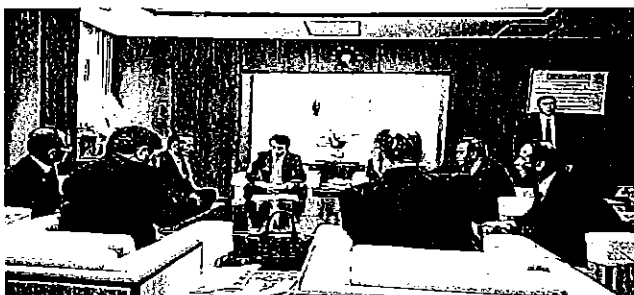
平成29年11月7日～11月8日

◆政府要望

- (1) 南九州地域の拠点港湾「八代港」の整備促進について
- (2) 球磨川水系治水対策の促進について
- (3) 物流対策と都市の防災・安全対策の推進について～南部幹線及び西片西宮線整備事業～
- (4) 災害に強い地域づくりや広域連携強化に資する交通基盤整備について
- (5) 球磨川総合水系環境整備事業について
- (6) 八千把・松高地区(古閑排水区)における浸水対策事業について
- (7) 水害の頻発・激甚化に対応する治水対策の促進について～大瀬川河川改修事業の早期完成～
- (8) 地域を守る総合的な土砂災害対策の推進について～球磨川水系川辺川砂防事業～
- (9) 物流対策の推進について～国道3号熊本～八代間の機能強化～
- (10) 中央(雨水)ポンプ場改築事業について
- (11) 八代海北部沿岸地域の堤防の堤防・護岸強化について「八代海北部沿岸都市」地域連携創造会議
- (12) 熊本県八代地域い産業を守る対策に関することについて
- (13) 国営八代平野土地改良事業の早期着工に向けて
- (14) 八代平野における農業農村整備事業の推進について
- (15) 鳥獣被害防止対策に関する要望について
- (16) 全国森林環境税の創設について
- (17) 「球磨川河口」のラムサール条約湿地登録に向けた国指定鳥獣保護区の指定について
- (18) 八代海再生に向けた抜本的対策について「八代海北部沿岸都市」地域連携創造会議
- (19) 合併特例事業債に係る発行期限の延長について



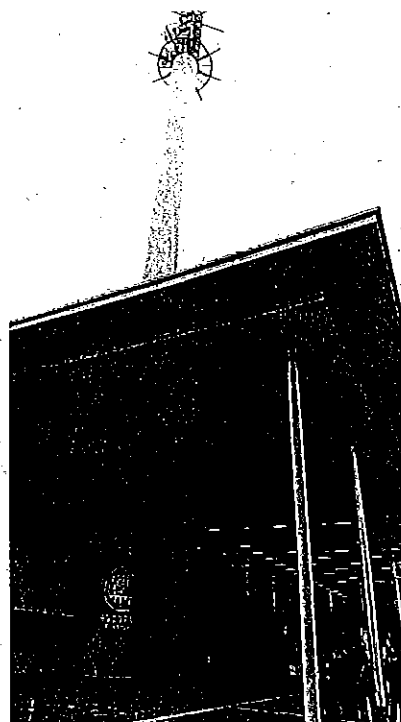
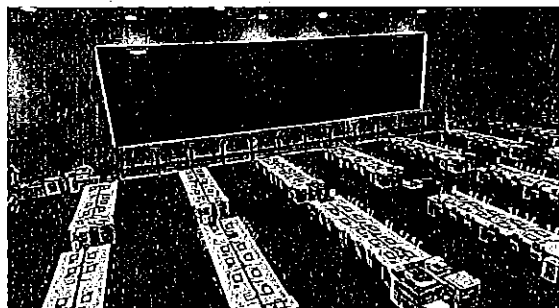
南九州地域の拠点港湾「八代港」の整備促進について



熊本県八代地域い産業を守る対策に関することについて 齋藤農林水産大臣

平成29年11月8日(水)

東京都江東区 東京臨海広域防災公園



平成29年11月9日(木) 埼玉県川越市 川越まつり会館



山車展示



大型スクリーン

蔵造の街並みに位置する

東京臨海広域防災公園 概要

東京臨海広域防災公園は、大規模災害発生に備えた施設。被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び支援部隊等のベースキャンプ、災害医療支援基地として、川崎市にある物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設。

□ 平常時機能

関係機関による防災情報の交換や各種訓練など発生時に備えた活動
来園者を対象とする体験・学習・訓練の実施

■ 発生時機能

現地対策本部の設置	被災時の情報収集・集約
関係機関との連絡調整	応急復旧活動の指揮

広域支援部隊等のベースキャンプ

自衛隊、消防、警察などの広域支援部隊等のベースキャンプ機能等

災害時医療の支援基地

救助活動、医療活動の情報共有化
トリアージの実施のための資機材・設備の提供等

その他

学習施設・被災地体験施設・そなえカフェ・オペレーションルーム
屋上庭園・エントランス広場・ヘリポート・多目的広場・草地広場 等

※施設所見については、別添のとおり

調査事項（川越市）

○川越まつり会館について

1 施設の概要及び建設に至った経緯

「川越氷室祭」は国の重要無形民俗文化財に指定された「関東三大祭」のひとつである。この祭の資料を展示・伝統を保存するため2003年9月28日に開館した。建築は川越の象徴的「蔵造り」のデザインとなっている。開館時間は、基本的に午前9時30分～午後6時30分 休館日は、月2回の平日（水曜日）である。入場料—一般300円 小中学生100円（団体料金あり）設備：大型スクリーン・山車展示ホール・展示コーナー・視聴覚室等

2 会館の特色

展示ホールでは川越まつりで実際に登場する山車を交替で常時2台展示している。日曜休日には、各町内が交替で囃子の実演を行っている官民地域あげての施設である。その他、まつりの臨場感を味わうため、大型スクリーンによる、祭の熱気・興奮を伝える上映内容。「会所」が再現され、行き交う人々の会話が聞こえる。

建物については、重要伝統的建造物群保存地区内であるため、制限を受けて建設。周辺街並みに配慮した「蔵造り」デザインの外観である。また、障がい者・高齢者、環境に配慮したスロープ、太陽光利用等で整備している。

3 入館状況及び市民からの評価

入館者については、開館以来順調に増加、2009年度には12万人に達した。近年は一日あたり286人程度である。入館者のうち約76%が一般人となっている。市民の評価としては、マンネリ感、リピートが少なく、特別なイベントの実施が望まれている。

4 現状における課題（運営面含む）

川越の観光振興と経済振興の中核施設としての役割を担っているものの今以上の入場者数の確保と今以上の施設の充実（行事内容含む）が求められている。また、ユネスコ指定に係る対応と海外観光客の増加に伴う方策、取り込みも重要でありチャンスでもある。蔵造りの街並みの会館前車道は、車の往来が多く歩行者にとっては、危険地帯でもあり、車道と歩道の分離も直近の課題である。

議員名【橋本章一】

◆視察日：平成29年11月8日（水）

◆視察先：東京都

◆調査項目：東京臨海広域防災公園

東京臨海広域防災公園は、首都圏で大規模な地震災害等
が発生した時、国や地方公共団体等の緊急災害現地対策本部
として、指令機能として活用される施設で、これまで経験した
大規模災害と、今後予想される大規模災害に備えた指揮
指令室や、発災後住民が生き延びる為に来り超えなければ
ならない、72時間の壁をいかに生き延びるかを学習出来る
体験室も備え、子供からお年寄りまで、常に大規模災害
に対して学習の場があるのは、素晴らしい事である。県単位で設置されて
思われる。又大規模災害に備えた、指揮命令を行う、オペレーション
等を見学し、本市の新庁舎における防災機能の重要性
を改めて実感した。

◆視察日：平成29年11月9日（木）

◆視察先：埼玉県川越市

◆調査項目：川越まつり会館について

〔橋本幸一〕

川越まつり会館は、本市の妙見祭と同時に、ユネスコ無形文化遺産となった川越まつりの歴史、まつりの様子又山車の実物展示を行う会館で、平成15年に完成された会館で、川越まつりの継承観光の面で、寄与されている施設である。同時に周辺の町並み保存と、まつり会館両面から町づくりが行なわれ、外国人観光客のインバウンド効果もあることから、本市における仮称、伝統文化伝承館の建設についても、町づくり又南進施設との相乗効果も同時に考える必要もあると思われる。

会派 自由民主党 (礎・絆・和) 行政視察所見

議員名【 谷 川 登 】

- ◆視 察 日 : 平成29年11月8日(水)
- ◆視 察 先 : 東京都
- ◆調査項目 : 東京臨海広域防災公園

東京都臨海地区に位置する「東京臨海広域防災公園」は、主に将来起こりうるであろう関東大震災に備え、防災拠点として2010年に設置され、施設内は、子供から大人まで学習できる設備を備え、実際の震災を想定した映像及び実物大の被災した建物等で構成され、実体験できるアトラクション形式で学習しながら震災直後の現場を疑似体験できた。

また、いざ有事のためのオペレーションセンターは、いつでも対応可能な状態で待機していた。

公園敷地は、広々としており、一時的避難場所としても災害対応でき、支援物資の搬入・搬出のハブ拠点として対応できる。

本市においても、熊本地震の体験を踏まえ、八代地域を網羅する、災害学習及び震災対応の拠点となる防災専用の施設は必要不可欠ではないかと強く思った。

会派 自由民主党（礎・絆・和） 行政視察所見

議員名【 谷 川 登 】

- ◆視 察 日 : 平成29年11月9日(木)
- ◆視 察 先 : 東京都
- ◆調査項目 : 川越まつり会館

本市の九州三大まつり「妙見祭」と同様、関東三大まつり「川越氷室祭」の山車の展示をメインとした施設「川越まつり会館」。

会館内は、山車を2基展示及び祭の準備風景、祭本番の昼夜の映像などで展開していく。歴史の変遷も順路通路に展示、川越の歴史も勉強できる。市民の川越まつりにかける誇りを感じた。

会館の場所についても、蔵造りの家が立ち並ぶ一角にあり、雰囲気を出している。

また、展示物・方法等は参考となったが、入場者の確保に苦慮している意見もあり、本市(仮称)伝承館構想においても、参考となった。

議員名〔中村 和美〕

◆視察日：平成29年11月8日（水）

◆視察先：東京都

◆調査項目：東京臨海広域防災公園

- 面積、国営公園（6.7ha）都立公園（6.5ha）の合併型公園で13.2haが融合した広大な公園
- 目的、首都圏で大規模地震災害が発生した場合の国や地方公共団体の緊急災害現地対策本部となり、自衛隊の救助活動拠点や、消防隊、警察、ボランティアの活動拠点となる、平常時は、軽いスポーツや家族サービスのピクニック等が楽しめる公園である。
- 又、敷地内には、生存時間クイズ時間体験学習ツアーが出る「そなエリア東京防災体験学習施設」がある。1階に防災体験ゾーン、2階に防災学習ゾーンがあり1階では、地震災害にて、実物の車両や

◆視察日：平成29年11月9日（木）

◆視察先：埼玉県川越市

◆調査項目：川越まつり会館について

【中村和美】

川越まつりは、市の最大イベントであり、市を代表する
伝統文化と川越市最大の祭りとの事。会館については、
川越まつりに関する知識の向上と、観光振興と
商業の活性化に寄与する施設と位置づけ、H15
年2年かけて建設オープン、三階建ての延面積
1614.53㎡、他に山車(ダシ)保管庫4台分、屋外
トイレを含む各々コンクリート造りである。建設費約
10億4,100万円、主な施設は、山車(ダシ)展示
スペース2台、資料展示スペース、視聴覚室等が
ある。メインは山車(ダシ)展示で、3台が年々回
交替で展示される。2ヶ月以上の展示は、文化
財の為に規制されているとの事(湿気等)、山車(ダシ)
の高さ8M、重量3t、値段1台1億2,000万円～
3,000万円、展示するにも苦勞があり、重要伝
統的建造物群保存地区内の為、建物の

会派 自由民主党（和）行政視察所見

議員名 前川 祥子

- ◆視 察 日：平成29年11月8日（水）
- ◆視 察 先：東京都
- ◆調査項目：東京都臨海広域防災公園

東京都臨海広域防災公園は、首都圏で大規模な地震災害等で発生したとき、国や地方公共団体等の緊急災害現地対策本部が設置され、公園全体が広域的な指令機能を受け持つ場所となっている。

平常時には、花や緑があふれる国営公園（6.7ha）と都立公園（6.5ha）が融合した広大なスペースで、人々が軽い運動や休憩、休息の場として利用されている。また、広大な芝生広場や舗装された広場では、防災訓練や様々なイベントが実施され、防災を身近に感じながら楽しく学ぶということをコンセプトにしてある。そのエリア内に「そなエリア東京」という防災体験学習施設があり、入館してきた。

1階が防災体験ゾーンとなっており、音響・照明・映像により、余震が繰り返されるジオラマの中をタブレット端末を使ったクイズに挑戦し、注意事項を確認しながら避難場所へ移動する。また、街の映画館では、首都直下地震の再現CG映像が上映されていた。

2階の防災学習ゾーンでは、首都直下地震特設コーナー、自助体験コーナーなど様々な学習プログラムが用意されていた。

これまで私は、実際の瀕死な災害状況に遭遇したことがなかったので、今回の防災体験・学習ゾーンを経験して、ある意味、リアリティな世界に身を置き生き残るための手だて、手段を考えるよい機会となった。また、私達は普段から防災・減災と言ってはいるが、実際の災害時にどのような行動がとれるかは、普段から災害をイメージして考えをまとめておかなければ、身を守る行動はとっさには移せないと思われた。

災害の備えにつながる「災害をイメージする力」と「対応力」を身につけるためにも、今後も地域での防災訓練等は、大人から子供まで幅広く体験学習して、それぞれの居る場所での自分の身の守り方と自分の役割等をしっかり把握させて置かなければならない。今回の視察での体験学習は、非常に有意義なものとなった。

◆視 察 日：平成29年11月9日（木）

◆視 察 先：埼玉県川越市

◆調査項目：川越まつり会館について

【前 川 祥 子】

約370年前から祭りの原点が始まったとされる今の「川越まつり」は、一本柱形式の勾欄に人形を乗せた山車が29台あり、毎年10月の第三土・日曜日に「宵山」「神幸祭」と2日間にかけて祭りが行われている。その29台の山車を1台ずつ定期的に入れ替えながら展示してあるのが「川越まつり会館」である。「川越まつり会館」は川越駅から北にある蔵造りの街並みの中に造られており、街並みに合った建造物となっている。

元々、商業の街であったが「蔵造りの町がおもしろい」ということが口コミで広がり、今や観光の街となり、「川越まつり会館」への入館者は年間約12万人近くである。観光客が楽しみにしている一つである「川越まつり」の「山・鉾・屋台行事」は平成28年12月1日に本市より一足早く、ユネスコ無形文化遺産登録されており、昨年はその影響もあって例年より1万5千人程入館も多かった。実は、山車は3台展示されており、1台は市所有の展示用の山車、1台は制作途中の物、もう1台がそれぞれの地区が所有して実際に祭りで使用される本物の山車で、やはり本物の山車が一番の呼び物のようである。

「川越まつり会館」に山車を展示する目的は、何ととっても観光客に1年中川越まつりを体感してもらうためであるが、夏場の文化財は2ヶ月以上の展示ができないため、年に4回、本物の山車の展示の入れ替えを余儀なくされる。来館者には季節が変わるたびに違った山車が見られるという楽しみもあるようで、好評のようだ。

結局、「川越まつり会館」には山車は1台しか展示しないことになるので、私が一番気になる他の山車の保管庫はどのような状況になっているのかということであった。他の山車はこれまで同様のそれぞれの地区の保管場所にあるが、保管庫の老朽化のため建て直しには、1ヶ所約数千万円かかり、そのほぼ半額を市が補助しているとの事である。補助額も大きいので、数年に1ヶ所ほどの保管庫の新築や改修を行っている。また、新しい保管庫も工夫を凝らし、山車を解体することなくそのまま保管でき、観光客の目にふれるように表はガラス張りにしてあるそうだ。

これまで、それぞれの地区で代々受け継ぎ大事に保管してきたものであるが故に、すべての物を1ヶ所に保管せず、これまで通りその地区の宝として大事にしていくことも地域の繋がりを保つ上で必要な事だとも思う。

このような川越のやり方をとるのであれば、それぞれの地区の保管庫の維持管理への経費に市の負担が多くかかってくるが、地域の繋がりを主体に考えるならば、それはお金には変えられない最も大事なことなのかもしれないと思った。

会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名【 高 山 正 夫 】

- ◆視 察 日 : 平成29年11月8日(水)
- ◆視 察 先 : 東京都
- ◆調査項目 : 東京臨海広域防災公園

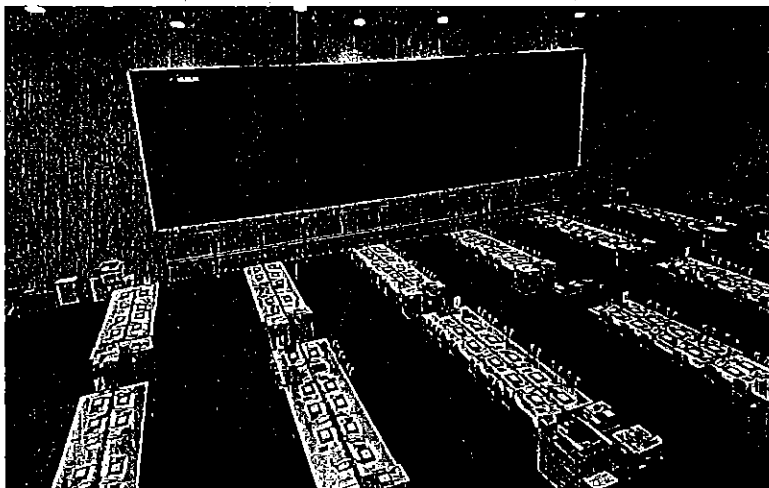
東京臨海広域防災公園は、東京都江東区の臨海地区に位置する。
将来予想される直下型大地震等の災害に備え、首都広域防災の主指令基地として建設されたとのことである。

施設棟の周辺は草地、広場、ヘリポート等広々とした空間に施設棟が立地しており災害時のあらゆる物資輸送、避難地として多目的な用途に活用できるスペースを確保しているものと思う。

施設中は、平常時に防災の知識を深めるため、子供から大人まで体験できる設備が備えてあり、実際の震災発生からシュミレーションした、アトラクションは、まさに災害体験できる臨場感があった。災害現場をどう対処していくべきか等、クイズ形式で進んでいく。

奥に進んでいくとおおきな体育館程のオペレーションセンターがあり、災害時の広範囲な指令拠点となっている。

本市においても、直近に起こった「熊本地震」を実体験してきた市民にとってもあの体験を忘れないところから、平時より防災意識を高める施設は必要であると実感した。新庁舎建設をきっかけに、本市並みの防災設備（市民の防災学習も可能）は必要と思う。



会派 自由民主党 和 行政視察所見

議員名【 高 山 正 夫 】

- ◆視 察 日 : 平成29年11月9日(木)
- ◆視 察 先 : 埼玉県川越市
- ◆調査項目 : 川越まつり会館について

川越まつりは、関東三大祭と称され、国の指定「重要無形民俗文化財」である。また、本市と同じくユネスコ無形文化遺産としても登録されている。「川越氷室祭」を基調とした会館である。

施設の中、メイン会場には、勇壮な本物の「山車」2基の展示、大型スクリーンによる祭の再現ビデオの上映。再現された「会所」では、人の行き交う会話が常時間こえるよう仕掛けがされている。

大都市圏域である当地、当会館は入場者数も順調に推移している。近年は、1日あたり286人の入場者となっている。ユネスコ指定記念では、入場料を無料とし、入場者が増加したとのことでもある。

日曜休日には、囃子の出し物を各町内交替で登場し、山車の出展も各町内同様の持ち回り展示としている。官民一体となって当会館を盛り上げている。また、街並みが蔵造りの建物一色で、当会館も同様の創りとして、溶け込ませている。雰囲気がある。

課題としては、リピーターの取り込みに苦慮している。イベントの計画が少ないとの市民から意見がでている。海外の観光客の増加による対応もある。最大の欠点は会館前の車道の交通量が多いため、入場者と会館周辺の商業地帯及び観光客歩行に弊害となっているため、車道・歩道分離施策が急がれる。

本市の「伝承館」構想。ユネスコ、山車展示等、コンセプト上の参考となった。ただ造るだけでなく、会館周辺整備、駐車場、会館までの歩行、車の流れ等そして、展示場、内容の面白みの工夫とイベント実施内容等のアイデアを豊富にし、市民、観光客に飽きさせない「会館」作りを目指すべきだと思う。

平成30年4月12日

八代市議会自由民主党 和
代表 橋本 幸一 様

八代市議会自由民主党 和

管外行政視察復命書

視察期日：平成30年3月29日（木） ～ 30日（金）2日間

視 察 先：大建工業株式会社 （岡山県岡山市）
大和ミュージアム （広島県呉市）

参 加 者：

議員 橋本 幸一 

議員 谷川 登 

議員 前川 祥子 

議員 高山 正夫 

会派 自由民主党 和 受講所見

議員名【 高 山 正 夫 】

- ◆受 講 日 : 平成30年3月30日 (金)
- ◆視 察 先 : 大和ミュージアム (呉市海事歴史科学館)
- ◆研修項目 : 大和ミュージアムの運営状況及び来館者サービスについて

軍事色濃い施設と一部「市民団体」、中国・韓国と批判を受けることもあったものの、日本の科学技術、戦艦大和を基調とした当施設は2005年開館時は、入場者数161万人と、当初予想の20万40万人を遥かに凌ぐ人気施設となった。また、広島市平和記念資料館を開設1年2年目は入場者数が上回ることもあった。現在は、80万人前後で入場者数を維持しており順調に運営されている。

運営主体は、平成20年から指定管理者制度が導入され、学芸部門以外は、管理運営、広報など民間会社で構成された「大和ミュージアム運営グループ」が担当し現在に至っている。

この施設の誕生により、呉市の年間300万人訪れるという一大観光都市へと成長した。効果絶大な施設である。地域経済影響については、呉市のみにとどまらず、広島市周辺(原爆ドーム・資料館・錦帯橋・宮島)の広島湾一帯の観光ルートに組み込まれるようになった。課題としては、呉市への宿泊客が伸びないところだけである。

来館者サービスとしては、入場料が一般500円で手ごろでもある。また、ボランティアガイドが常駐しており、手軽に案内し、語り部となってくれる。

所見としては、あの「戦艦大和」がモチーフとなって、10分の1大和の製作にあたって、本物の大和の造船所で造られ、鋼鉄製で正確に再現されている。本施設、企画・制作にあたっての本気度が伺える。本市の「伝統継承館」(仮称)の建設にも本気度を入れ、どうコンセプトを持っていき、飽きられない設備・企画を考えて行かなければ難しい。



会派研修会受講所見

議員名 前川 祥子

- ◆受講日：平成30年3月29日（木）
- ◆研修先：大建工業株式会社 岡山工場
- ◆研修内容：国内における和紙畳の現状について

和紙を原料として畳を製造する過程を視察し、日本人ならではの発想だなあとある意味感心した。その和紙は、北欧からの輸入木材や国内の廃材を利用した木材チップを原料として製造されており、いぐさに見立てて作られた1本体の繊維をいぐさの織機で畳表が織られ、その出来栄えは、いぐさ畳表に似せて作られているという事もあり、畳表のイノベーションと捉えた方が、私の中ではしっくりいき、自然ではないかと思った。

ただ、考えなければならぬのは、日本の住宅に長い間定着していたいぐさ畳みも、なぜ減少してきているのかということと、その状況の中でなぜ和紙畳が出現しその需要が増加しているのかということであり、その点をしっかりと検証しなければならない。私達はこれから国内産のいぐさ畳表を守っていくことは前提であるが、いぐさにしても、まず日本の住宅の中に畳み文化を継続させていく必要性をしっかりと見出し、いぐさと和紙の差別化も含めて、それらを世の中に発信し、走り出している和紙畳みと共存共栄できる体制作りを共に考えていくことが、これから我々にとって必要となってくると感じた。

会派研修会受講所見

議員名〔前川 祥子〕

◆受講日：平成30年3月30日（金）

◆研修先：大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）

◆研修内容：大和ミュージアムの運営状況及び来館者サービスについて

呉駅から徒歩5分、海に見える立地条件の整った場所に整備された大和ミュージアムは戦前、戦後を通じて、東洋一の軍港、日本一の海軍工廠のまちとして栄え、また日本が世界一の造船国へと発展する高い技術を持ち備えていた等の歴史をしっかりと未来へ伝える役割を果たしているように思えた。

大型資料が展示されている中、戦艦大和やその他の戦艦の撃墜されるまでのストーリーを地元のボランティアの方に場所を移動しながら説明して頂き、当時の日本人の想いに心馳せることができ、非常に興味深い視察内容であった。ただ施設の規模や展示物等、それぞれのスケールや内容は本市の伝統芸能伝承館やその展示物とは全く異質で、比べる対象にはならないと思った。本市に於いて、伝統芸能伝承館の展示物に人の興味を引くようなストーリー性を持たせていくことがこれからの課題であると思う。

自由民主党会派 {礎・絆・和} 行政視察所見

委員名 {谷川 登}

視察日 平成30年3月29日 {木曜日}
視察先 大建工業株式会社視察
調査項目 国内における和紙畳の現状について

大建工業株式会社製品の紙製畳表は、木質繊維原料 {機械すき和紙} をこより状に巻き、織機で織り上げた新しい素材としての畳おもてであった。

木質繊維を原料としているため、イ草のもつ心地よい感触と共に、変色しにくく、ダニ、カビも発生しにくいといった特徴のある商品であった。又、原紙の色を変えることにより、カラーバリエーションのひろがり、新たな住空間が展開できる商品開発をしている。

又、DAIKENグループは創業以来、建材メーカーとして未利用資源の有効活用にも積極的に取り組み、地球にもやさしい資源環境型の製品として、木質繊維からつくるダイケンボードは、国内初の連続湿式抄造法により、木材チップを原料として製造され様々な木質繊維を巧みに配合し、木材繊維が絡み合うように形成されるため、繊維組織内の空気が、断熱効果のダイケンボードを製造販路拡大している。又、紙製畳表は、表面処理してあるため水やカビは生えにくいかもしれないがい草畳のような香りが無い。八代における畳文化は、やはりい草畳表で作られた畳が一番である。

これからの八代産のい草畳表のよさをPRし販路拡大が必要と思う。

自由民主党会派 {礎・絆・和 { 行政視察所見 }

委員名 {谷川 登}

視察日 平成30年3月30日{金曜日}

視察先 大和ミュージアム視察

調査項目 大和ミュージアムの運営状況及び来館者サービスについて

呉市は設立主体とする博物館、戦前、戦後の呉市における船舶製造技術を主たる展示内容としている。愛称の大和ミュージアム旧日本海軍の超大型軍艦大和の建造と軍事活動が中心となっている。

造船の街あるいは軍港、呉市の歴史や、基幹となった製鋼や造船などの科学技術を展示することを目的としている。

太平洋戦争終戦から60年目にあたる、来館客数500万人である。呉市は広島市{被爆地ヒロシマ}に近接し、海上自衛隊、在日アメリカ陸軍の施設が現役で稼働している安全保障問題の現場としての土地柄、修学旅行生の平和学習の場としても活用されている。

又、呉市の歴史的観光資源を再発見するきっかけとして呉市を全国的観光都市に成長している。呉市の経済社会にも影響を与えており、様々なイベントが行われる地域拠点の役割も果たしている。

又、戦艦大和建造など軍事、戦争によって発達した産業技術そのものとその使われ方{軍事目的}とは分けてとらえるべきだとしている。又、館の方針としては、当館を{平和学習の場}として開放するため、実物の兵器や当時の映像フィルムなどの歴史的資料を提示するかたちで意見や注釈は付けず、政治的にニュートラルな立場をとるよう努めている。

未来に夢と希望を抱いていただくことのできる呉らしい博物館とすることにより、地域の教育、文化及び観光等に取り組んでいた。

会派研修会受講所見

議員名【橋本章一】

- ◆受講日：平成30年3月29日（木）
- ◆研修先：大建工業株式会社 岡山工場
- ◆研修内容：国内における和紙畳の現状について

大建工業株式会社は、戦後間もなく設立された会社で、木質ボードを主に製造する会社として現在に至っている。その中で畳床の分野でワラ床と共に木質床の分野で大玉ワシエを示るに至ってきたが、現在はワラ床のシェアが低下し木質床が大玉ワシエを示るに至った事から畳屋さんやメーカーからも畳表の要望が高まった事から、和紙畳表の製造への取り組みが始まり、ゴヨリ紙に製造した和紙の糸を、草織機と同じ織機を使って、織る和紙表の製品化に成功し、着実に成長しているとの事である。今後中国の生産が不安定の中、国産の蓍を主に、国内の需要をいかに維持していくか、大玉の課題、と日本の伝統文化である畳文化を蓍畳として和紙畳その他でどのように守っていくか、お互いの情報交換の必要性を痛切に感じた。

会派研修会受講所見

議員名〔橋本章一〕

◆受講日：平成30年3月30日（金）

◆研修先：大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）

◆研修内容：大和ミュージアムの運営状況及び来館者サービスについて

呉市の大和ミュージアムは、現在日本の史料館の中で最も入気が高く、来館者も年間80万人と、多数の来館者のある史料館である。この日も子供つれの家族や、お年寄りの団体と色々な年齢層の来館者で賑わっていた。これから多くの来館者の対応に、ボランティアの存在が大変いいと思われた。登録者は実に100人登録され、それを4班に分かれて対応されているとの事で当日でも、依頼があれば、すぐ対応出来る体制にあるとの事で、館内の展示物ほもとより、来館者の対応も完璧に運営されている大和ミュージアムであった。又駅と大和ミュージアムとの動線も途中の商業施設とうまく連携されていて、経済波及効果を高めている所も検討されていると感じられた。本市の伝統芸能伝承館においても参考にすべき体制作りと思われる。又呉市における観光分野を含め地域の活性化に大きく貢献出来る事も参考にすべきと思われた。